

長野県の訪日教育旅行の取り組みについて

2015年7月29日

長野県観光部国際観光推進室

推進員 恵崎良太郎

① 長野県の位置づけ

- ・長野県観光振興基本計画 達成目標 120団体（平成29年度）  
県として訪日教育旅行の誘致をインバウンドの重要な柱と位置づける。
- ・目指す姿「教育旅行受入数日本一」

② 受入体制の充実

- ・長野県観光部、長野県教育委員会、国際課、信州・長野県観光協会、市町村観光課、市町村教育委員会との連携。  
国際観光推進室はコーディネーターとして受入が円滑に進むよう取り組む。
- ・長野県教育委員会教学指導課に訪日教育旅行の担当者の配置。
- ・観光部国際観光推進室に元校長先生の配置。
- ・観光部国際観光推進室に中国語、英語のできる職員の採用。
- ・県高校校長会、市町村（小中学校）の校長会へ出席し訪日教育旅行について説明をして受入の理解を広げる。
- ・私立学校（小中高）、専門学校、大学へ訪問して訪日教育旅行について説明をして受入の理解を広げる。
- ・体験施設、ホテル、旅館、農家民泊等民間事業者との連携、新しいコースの提案。

③ 学校交流受入の流れ

- ・公立高校の場合 観光部⇒県教育委員会教学指導課⇒各高校へ連絡  
観光部と教育委員会で相談して依頼する高校を決める。決まった後は観光部で具体的な打ち合わせをする。
- ・公立小学校、中学校の場合 観光部⇒市町村観光課経由教育委員会⇒各学校へ連絡  
決まった後は観光部で具体的な打ち合わせをする。
- ・私立学校、専門学校、大学は直接学校に依頼します。

④ 受入校への支援・確保（負担の軽減）

- ・交流校の資料を事前に提供する
- ・学校を訪問して事前の打ち合わせをする（小中の場合は市町村の担当者も同行）
- ・サポートマニュアル及び交流例の提供

- ・交流経費の一部負担
- ・記念品の提供（記念品交換）
- ・当日、担当者、通訳の同行
- ・歓迎横断幕、見送り横断幕の用意
- ・その他相談に応じサポートする

⑤ 海外の学校に対する取組（国ごとの希望を聞きキメの細かい対応をする）

- ・交流申請書の提出（学校の情報及び交流に対する希望を記入していただく）
- ・中国の特徴

時期は夏休み（7月）旧正月前（1月～2月）が多い。

今年も6月末から8月末で、41団体、1,346名

小学校、中学校が多く、高校は少ない（大学進学の為時間がない）

合計	41団体	1,346名	内訳	小学校	20団体	659名
				中学校	18団体	589名
				高校	3団体	98名

旅行期間：6泊7日又は7泊8日 大阪～東京 東京～大阪が多い

申込み時期：2ヶ月から1ヶ月前が多い

理由 校内募集人員が確定しない。飛行機が取れない

交流時間：3～4時間

- ・台湾の特徴

時期は4月下旬から5月末、10月～12月中旬、1月～2月上旬

高校生が多く、小学生、中学生は少ない

旅行期間：5泊6日が多い。14日間コースもある。

申込み時期：6か月～3か月前

交流時間：5時間位

台湾教育部が推進している

- ・学校交流内容の充実

受入校の特徴ある交流内容（普通高校、工業高校、農業高校、商業高校等）

生徒同士が交流できる時間を多く作る

テーマを持った交流

事前交流（訪問する前に、メール・スカイプで交流）

美術、音楽、美容、料理、アニメーション等希望に沿った交流

スポーツ交流（野球、サッカー、卓球、バレー等）

- ・長野県の教育旅行プランの作成（日、英、中国（繁体字・簡体字）、ハングル語）

環境・エネルギー、ゴミ清掃工場などのリサイクル施設、自然・文化体験、科学技術、伝統文化、ファッション、アニメ、国際協力等を考慮し、コースに組み入れること。

- ・農家ホームステイ体験

素顔の日本人に会える、日本の文化が体験できるので希望が特に多いホームステイは対応しきれていない場合もある。長野県内には受入出来るところが8ヶ所(400名)あります。

- ・姉妹校について

交流が進むと姉妹校締結の希望が寄せられます。

長野県ではほとんどの学校で姉妹校を持っていません。今後は国際化時代の要請から、その増加が予想されます。

昨年度は茅野市立中学校4校と高崎市立中学校4校、私立高等学校1校と高崎市立高校2校と姉妹校を締結しました。

大学では、長野大学が台湾朝陽科技大学と交流協定を締結しました。

今年度は10月に県立高等学校と台湾国立華僑高級中学と台湾修学旅行の際、姉妹校締結する予定です。

## ⑥ 相互交流の推進

- ・海外修学旅行の推進 今年度 県内の高校7校 990名が海外修学旅行・研修旅行を実施します。

交流校の紹介、現地での学校交流のサポートをしています。

### おわりに

教育旅行の現地プロモーションを通じて、各国における長野県の知名度が徐々に向上してきていると実感しています。実は、口コミが極めて重要で、長野県で学校交流した学校が、自校あるいは近隣の学校に「大変良かった」と語っていただけの事が大切なのです。一度受け入れた事がある学校の校長先生、教頭先生が、転勤されることにより受入ノウハウが拡大することも、長野県内の受入校の面としての広がりをもたらしています。

2014年には、長野県の高校5校(約600名)が修学旅行・研修旅行で台湾を訪問し、大歓迎を受けました。本年度には、この台湾の高校が、訪問したいと希望し、内容の濃い真の相互交流が期待されています。海外からの教育旅行の誘致・受入れ体制の整備に、今後とも一層力を入れていきたいと考えています。